

第3回 山武市学校のあり方検討委員会 会議録

| | |
|------------|--|
| 1 日 時 | 平成27年3月26日(木) 午後1時40分から3時30分 |
| 2 場 所 | 山武市役所 第7会議室 |
| 3 出席委員 | 14名 |
| 4 欠席委員 | 6名 |
| 5 会議内容 | ○意見を聴く会を踏まえての今後の進め方、考え方について (1)山武市小中学校の規模適正化・適正基本方針【素案】に関する意見を聴く会の開催結果等の資料説明 (2)今後の進め方、考え方について ○その他 |
| 6 委員以外の出席者 | 教育委員4名、事務局11名 |
| 7 事務局説明者 | 教育長、教育総務課長 外 |

1 開会 午後1時40分

2 あいさつ

※委員長から遅れる旨の連絡があったことから、副委員長からあいさつをいただいた。

副委員長：本来であれば今関委員長があいさつするところだが、只今、こちらのほうに向かっておられるということなので、私からあいさつさせていただく。本日は、ご多用の中、お集まりをいただき感謝申し上げます。この山武市学校のあり方検討委員会のほうも、いよいよ取りまとめの終盤に差しかかってきたので、本日の会議において、委員の方々のご意見を伺いながら、方向づけをさらにしっかりとし、進めさせていただきたいと思っているのでよろしく願います。

教育委員長：三寒四温で朝晩少し寒いが、今日は随分暖かく桜の花も一気に膨らんでくるだろうと思う。そんな今日この頃、年度末でほんとうに忙しい中、各界の皆さんにお集まりいただき、感謝申し上げます。先日、3月7日、8日、それから15日と、土日をかけて6中学校区で基本方針【素案】に関する意見を聴く会に出席し、丁寧に説明をしてきたところである。思ったより集まってもらえなかったことが少し残念ではあったが、それぞれ抱えている問題は、6中学校区とも異なり、もう少し関心を持って参加していただけるのではと期待していたが、ちょっと少なかったという印象を受けている。今後いろいろな課題があり、皆様のご意見をお伺いしたいと思っている。あくまでも数合わせではなく、子どもにとって望ましい教育環境をどうしたらいいかということなので、どうかその点を念頭に入れ、ご意見をお聞かせ願えれば幸いである。よろしく願います。

3 協議事項

○意見を聴く会を踏まえての今後の進め方、考え方について

(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針【素案】に関する意見を聴く会の開催結果等の資料説明

副委員長：それでは、委員長が来られるまでの間、議長を務めさせていただく。まず初めに、協議事項の(1)について事務局より説明をお願いする。

事務局：それでは、協議事項(1)の①地域別協議会開催結果報告について、事前に配付させていただいた資料の1ページ目、地域別協議会、蓮沼地域での意見から説明させていただく。事前配付にさせていただいているので、概要だけ説明させていただくが、蓮沼地域については、地域別協議会、各地域別の学校長、区長さん、それとあとはPTAの代表の方、保育園の園長先生、その保護者の代表の方ということで集まっていた。そこで出た意見は、蓮沼地域については、基本的に私どもがお示した適正規模・適正配置の素案の考え方については、反対という立場からのご意見が多かったということである。この案でいくと、蓮沼のコミュニティが崩れてしまうのではないかとということ。それと、今現在、蓮沼の小学校も中学校も非常にいい状況で学校教育、学ぶ環境ができているのを壊したくないという、そういうような意見が多く出ていた。これを変えて統廃合していくメリットがどこにあるのか、そういうような意見が多く出ていた。適正配置に関する意見として、例えば、東日本大震災の関係を考えていけば、もう少し津波が来ないエリアに学校があったほうがいいかなと思う、そういうような保護者の方の意見もあった。そういう意見があったものの、基本的に素案に対しては反対といったものが多かったというような形であった。

3ページ目の成東地域の地域別協議会での話し合いでの意見は、こういう子どもの数が減っているという状況の中では、統合はやむを得ないのではないかと。基本方針の考え方、素案に対しての考え方とすれば、やむを得ないといった中で、ただ、今回、具体的な、いつごろまでというタイムスケジュールや、どこの学校を使ってというような案がこの中には盛り込まれていないことから、そういう具体的な事項に対する意見が多かったというような印象を受けている。通学距離が遠くなってしまうことに対する、スクールバスの配置であったりとか、通学の安全性をきちんと確保してもらいたいとか、そういうような個別具体的な意見が多く出ていた。あとは、成東中学校の建物が古いという中では、建て替えについての意見、いつごろ建て替えるのか、その場合の位置はどこになるのか、そういう意見も出ていた。早めの建て替えという要望の中での話だと思う。

続いて5ページ目、山武地域の地域別協議会についても、基本の考え方は成東地域と同じで、統合はやむを得ないのではないかとというような意見のほうが多い中で、やはり素案の中で示されていない具体的な事項についての意見が多い話し合いであった。この中では、5ページの意見の一番上のところ、意見というところの下に網かけになっていて、方針全般に関する意見のすぐ下のところを書いてある、孟母三遷の故事というところだが、スピード感を持って取り組んでほしいというような意見が、山武地域では出たということである。ただ、山武北小が分校でずっと存続していたという歴史もあり、地域のお考えというものもあるというような、そういう意見もあった。

松尾地域は、7ページ目に書かれているが、松尾地域については、今現在、複式学級が見込まれている豊岡小学校があるので、地域と学校の関係等について、学校がなくなってしまうという危機感が強い地域であり、そういう面での意見が多く出ていた。複式になると、やはり学力の面で心配なのだという意見がある反面、地域から学校がなくなってしまうと、というところもなかなか難しい面がいろいろある。そういう中では1つになるにはなかなかうまく進んでいかないのではないかと、そういうような意見が多く出ていた。というのが地域別の協議会での意見の概要である。

9ページ目からは、3月7日、8日、15日の3日間、午前午後で行った、中学校単位での意見を聴く会の開催の結果をまとめたものである。

こちらについては、9ページ目の上のほうに参加者数が載っているが、合計146人ということで、各学区ごとでは20人ぐらいの人数での意見を聴く会になってしまった。教育委

員長からお話があったように、非常に少ない人数の中での意見を聴く会であった。そういった中で、基本的に今回集まった方の中には、市教育委員会がお示した素案に対して、異を唱えるというふうなつもりで、いらっしゃった方のほうが多いのかなというところで、基本的には反対を唱える方の意見も結構多く出ていた。

9 ページ目の各中学校区での主な意見ということで、共通して言えることは、やはり具体的な案が示されていないというところで、いつ統合するのか教えてもらいたい、優先順位や学校の位置、年次計画推進といったところを具体的に教えてもらいたい、そういう意見が多く出ていた。中学校区単位で行ったことから、今後このような説明会を小学校区、小さい単位での開催を要望する声が多く出ていた。各学校区ごとの特徴的な意見としてまとめたものが、その下に記載している。

成東中学校区については、統合はやむを得ないという意見がある中ではあるが、1 学級当たりの児童生徒数、子どもでお示したのが 25~35 という人数が、国際的な学校の規模を見ると、この人数だと多いのではないかというような意見も出ていた。そういった中では、例えば、成東中学校区でいけば、大富小学校の今現在の人数は、国際的な基準から言えば、むしろそのぐらいの数なのではないかという中で、山武市の教育委員会が示した 25~35 という数は多いので、そういう数字にしなくてもいいのではないかというような意見もあった。また、成東中学校の老朽化というところでの建て替えや改修の要望が意見として出ていた。

成東東中学校区の中の意見としては、ここには書かれていないが、やはり参加者が少ないことに対して、もっと参加者を集めることができなかつたのかというような意見が出ていた。その中で、ここに書いてあるような集団登校、スクールバスによって集団登校ができなくなってしまふようなことだと、集団登校は子どもが成長していく上で大事なものなので、その辺の検討も十分お願いしたいというようなことと、乗っている時間をなるべく短くしてもらいたいというようなこと。この統合によって学校が遠くなってしまふことによって、例えば、市外の学校のほうが近くなってしまふような場合、区域外の就学についてはできるのかどうか、というような具体的な話もあった。

松尾中学校区については、やはり複式がもう目の前にあるというところの学校もあることから、その複式になった場合の問題点はどこにあるのかというような意見と、答申にあった小中一貫校や特認校制度について、再度の検討をお願いしたいというようなことで、そういうことによって豊岡小学校を存続するようなことも考えてもらいたいというような意見が出ていた。また、今後、学校の統廃合が進んでいくのであれば、その統廃合のための準備専門部会の委員の選出に、地域の人を多く入れるような配慮をしてもらいたいというような意見。あとは、跡地の利用の問題とか、統合の時にいろいろ生ずる課題の解決方法ということで、ここに書いてあるようなことに配慮してもらいたいという意見が出ていた。

10 ページ目は蓮沼中学校区であるが、まず適正規模という考え方を一律で考えるのではなく、地域の実情を考慮して考えてもらいたいというような話があった。地域で支えて子どもたちを全体で育てている地域なので、そういうところから学校をなくしてしまえば、ここで子育てをしようという考えはなくなってしまうし、ますます人口が減っていつてしまふ、地域が壊れてしまふということから、学校を残してもらいたいというような意見。それと、今、蓮沼地域で行われている、まちづくり協議会、蓮沼むらづくり協議会ということで、地域コミュニティを活性化させようという取り組みが今行われているが、それと統廃合の方針というのは相入れないのではないかとということで、それぞれまちづくり協議会も市の事業としてやっているものであり、統廃合も教育委員会で行っている、そういうところで矛盾するのではないかと、そういうところに全く市のビジョン、どっちへ進みたいのかということが見えて

こないというような、そういう意見もあった。

次に山武中学校区では、比較的統廃合については前向きな意見をおっしゃる方が多く参加していたように見受けられた。児童生徒数の現状を見ると、早い統廃合を進めてもらいたいというような意見。あとは、これは地域とかでスポーツの指導されている方もおり、活動が成り立たない状況にあるので、早い統合をお願いしたいというような意見が寄せられた。学校の先生方はどう考えているのか、先生方は今回同席していただかないという方針でやっていたので、先生方の意見も聞きたいというような意見もあった。統合までの時間がスケジュールに示していない中での話であった訳だが、統合になる時期が決まったら、その間、今現在の小規模校をどのようにしていくかというような、市の独自の対応策はあるのか。そういう意見もあった。

山武南中学校区についても、山武中学校区と基本的には同じような意見が多かったと認識している。そういう中で、山武西小の分校化という考えはあるかということがあった。低学年の時は近いほうがいいので、通う距離が遠くなるよりは分校で育てる。それから、本校に行くというような形の考えがないかという意見があった。あと、山武南中学校区は、ほかの地域よりも、東金市の源地区の方から区域外就学で通っているという方も多くいる地域、ほかの地域と違ってそういう方が多い地域なので、そういう源地区の方が、今度、学校に通う場合、スクールバス等は手配してもらえるのかどうかという、そういう具体的な質問も出たところである。あと、学校が避難所に指定されている中で、統合後、もし廃校になった場合の学校は避難所として使えるように指定されるのかどうか、そういうようなご意見もあった。この避難所の件もそうだが、教育委員会所管以外の部分の話もかなり出て、統廃合した場合の学童保育はどこでやるかとか、そういうご意見。あとは、廃校となる学校の跡地利用をどのようにしていくのか考えているのかということで、まちづくり協議会の設立と統廃合の関係、先ほど話した蓮沼中学校区でのまちづくり協議会と統廃合との関係のようなことに対する意見もあった。これは山武中学校区でも同じような意見が少し出された。

具体的に6地域の中学校区それぞれでも出たが、人口の減少に対して増加させる、人口増させるような市の施策、取り組みについて、そっちが先だろうということで、そういうことをやらないでにおいて統廃合というのはないのではないかと、そういう意見を多くいただいたというような話し合いの会であった。

資料の11ページ目は、意見を聴く会に参加いただいた方に、アンケート用紙をお配りし、記載していただいたものをまとめたものである。ここで見ていただきたいのは、資料の中段のところ、3-1というところで、望ましい学級数、私どもで示した小学校については12学級以上、クラス替えができるという12学級以上、中学校は9学級以上というような案に対して、適当か適当ではないかというところの意見をお答えいただくというところにおいては、一番右の端に全体の割合をパーセントで示したものがあるが、適当であるというような意見は68.9%をいただいている、案そのものについては容認していただけるような割合の数字をいただいた。それはこの6中学校区のどこでもこの数字が一番多いということになっている。中学校区についても、67%の方は適当だということで、クラス替えができる規模はやはり望ましいと考えている方が多くいた。望ましい児童数については、やはり適当だと思っている方は、小学校区57.5%ということで、半数以上の方はこれが望ましいというように思っている。中学校区については、さらに多い62.3%の方が適当だと思っただけという状況にはなっている。ただ、1学級当たりの望ましい児童生徒数については、多少の差があり、成東中学校区は、適当だという方が8人に対して、適当ではないという方が5人いたということで、結構な割合で適当ではないと考えている方がいた。あ

と、蓮沼中学校区は、半々で割れている。松尾中学校区についても、14対12ということで拮抗しているような数字になっているというところで、やはり今現在、小規模校区に住んでいる方々は、今の数で大丈夫なのではないか、少ない数でも。先ほど、受けた意見の中で、国際的に見て少ないほうがというようなところ、あとは少ないほうが目が行き届きやすいのではないかというような意見もあったが、そういうところからこういう結果が出ているのではということが見受けられる。

中学校についても同様に、全体とすれば多いが、成東中学校区については半々、適当ではないという方も約半分近くいる。蓮沼中学校区については、小学校の場合は半々に割れるが、中学校については適当だという方のほうが半分以上上回っているというような数字になっている。

そういうことで、地域ごとに多少特徴的に分かれてくるところもあるという感じの数字が出ている。ただ、望ましいと言えば、大体この規模は望ましい、考え方は方向性とすれば合うが、実際、そのためには統合しないという数になりませんよと言った段階では、やはり難色を示すというような結果が出ているというような状況である。

あと、資料の最後に地域ごとの人口ピラミッドの表を付けている。こちらもお覧いただいて、どの地域も基本的に0歳に近づけば近づくほどしぼんでいくような、そんなグラフになっているので、先々減少化傾向が進んでいくのではないかというようなことを示すような形になっている。説明は以上である。

※委員長が到着したことから、ここであいさつをいただいた。

委員長：本日は遅れてしまい大変恐縮であり申し訳なく思う。遅くなってしまったことをお詫びする。

副委員長：委員長が到着されたので、進行を委員長にお願いします。

委員長：それではここから私が議長ということで進行させていただく。私も地域別の意見を聴く会に幾つかお邪魔させていただいた。成東地域、蓮沼地域、それから松尾地域でも、そのときの感じとしては、人が減っていくという切実さが、まだ市民の皆様の中にはきちんと理解されていない。多分この話は10年も経つともう少し皆さんに理解されるのではないかと、そんな思いがした。そういう思いがあったので、今回、事務局のほうに人口ピラミッドというものを作成いただけないか、ということをおのほうからお願いしたわけである。多分、まだまだ、この人口が減っていくということが、子どもたちの数が減っていくという、そこに起因しているということについて、市民の皆さんの理解がきちっとしていない、そういうような思いがあった訳である。

ただいま事務局からご説明があったが、委員の皆様から、ご意見、ご質問をいただきたいと思う。A委員はいかがか。

A委員：私は、意見を聴く会には所用で参加できなかったが、この資料の意見からは、今、委員長のおっしゃったようなことを感じる。特に人口を増やす施策云々という部分は、ここでそれを言われても、何を言っているんだという話である。子どもたちは、6年すると、今、小学校にこれから上がる子がもう卒業してしまう。3年で中学校に上がる子が中学校を卒業してしまう。じゃあ、その間、何もしなくていいのかという話になってしまうので、やはりここは、ある方がおっしゃっていたが、スピード感を持ってやってほしい私はずっとそれを訴えてきた。意見の中には、子どもたちの意見を聞いたらどうかとあるが、子どもというのはものすごく適応力が高いので、小さいコミュニティになれば小さいコミュニティで、それで済んでしまっているのだと思う。私たちは、大きなぎやかな状況を知っているので言えるが、子どもたちにそれを聞いても、今の状況で多分満足している子はしているのだと思うので、そ

れもちょっと当てはまらないのかなど。大人が考えなければいけないことだと思っている。1つ言いたいのは、地元の中学校の生徒が野球部に入っているが、どうだと聞いたときに、あんまり楽しそうな顔をしていなかった。よく話を聞いてみると中学校ではチームが組めないの、合同チームになり試合に出られるだけだと、すごく寂しい顔で言っていた。その子は、リトルのころからクラブチームでやっていて、ものすごく野球の好きな子なのだが、ものすごく寂しそうな目をして言っていた。子どもにこんな悲しい思いをさせるのは、大人のせいなのではないのかなともものすごく反省していた。とにかくいろいろ乗り越えることがあるかもしれないが、ご意見はご意見として、いろいろこれから検討しなければいけないことがあるので、しっかり議論を進めていかなければならないと改めて思った。

委員長：そのほかに、ご意見、ご質問があるか。副委員長はいかがか。

副委員長：発言を求められたので、少し感想めいたことをお話しさせていただくと、やはり地域にとって学校というのは、非常に重要なコミュニティの中心となる場所であることは間違いないと思っている。先ほど、A委員からも話しが出たが、お子さんたちは現状としては満足されているかもしれない。これを全国的に見ると人口が減少していく中で、狭い視点で考えると、統合やむなしと。それから、スクールバスを導入するというような方向が大きな流れだとは思いますが、一部の市民の方からも出てきているように、この問題だけを単体で扱っていくと、やはり必ず行き詰まって、子どもたちが外に出ていってしまうとか、ここから人口を増やす施策がないまま黙って待っていればいいのかということに、今度、この学校のあり方から違う市の行政のあり方のほうに問題がスイッチしていったら、どんどん問題が大きくなる一方、今度目は先目のものが解決できなくなるというのが、多くの自治体で出ているような状況に私は印象を持っている。そういう中で、1つは、人口ピラミッドを委員長が言われて示したのは、かなり形的にもショックなものだと思うが、これをやはり市民の方たちがご覧になるとか、知るとかということが重要なことであろうと思う。これを見ると、明らかにこのままではいけないというような方向になってくるが、じゃあ、果たして次に行って何をするかというところが、まちづくりとか地域の活性化とかというところに行くと思う。1つの方向としては、やはり今まで議論が委員から出てきたように、統合によるメリットということをかなりしっかりと打ち出して分析して、その効果をきちんと見せることが、議論していく上で重要ではないかなというように思っている。それが得られなければ、やはり統合とかあり方を新しく変えるということとはなかなか難しいのかなと思う。なので、この新しい統合を賛成する人たちがいて、それをやってもいいんじゃないかなと思う部分というのは、何らかのメリットを期待しているからであり、先ほどA委員が言われたように、野球とかでできないことが、子どもたちの成長にどういう影響を持つのかとか、そういったことが市民レベルにまだ落ちていないんだと思う。そこまで含めて落としていかないと、なかなか身近な問題に感じることができないのではないかなというように私は思っている。

委員長：次に、B委員はいかがか。

B委員：まず第一番目に非常に残念な結果が出たのは、この意見を聴く会の出席者である。私は、ほんとうであれば全部に顔を出したかったが、他の用事とバッティングしたので、自分の学区内だけでもどうしても出て、どういう意見が出るか見ようと思って、山武南中学校区だけ出させてもらった。私自身が自治会長もやっているの、事務局のほうから回覧としてこの日程が配られ、これは大変いいことだと思いき、わざわざ私は回覧のところに、各班の回覧に自分で書いて、必ず万難を排してでも出席してくれということをつけて回覧を出したが、残念なことに1人もうちの自治会からは出てこなかった。結果的に、山武南中学校区は32人の出席者となっている。委員長からの指示で、この人口グラフが出ているが、これは大変よか

ったと思う。さっと合計したところ、今現在、全体で 54,374 人になっている。合併当時に 60,500 人いた人口が、もうこれだけ減ってしまっているということを見ても、とにかくどれだけ人口減しているということにつながって、子どもたちの数も減っている、比例しているということで一目瞭然だということで、各地域を比べてみると、成東地域が 22,936 名いる。その中で東中学校区と合わせても 31 人しか出ていない。これだけの関心のなさに私はびっくりした。あと 11 年したら、最終的にきちっと形を決めなければいけないということで、このあり方検討委員会もやってきたが、全くその都度、いろいろなことで PR もしたり、市民の人にも、今現在、あり方で検討している、答申も出ましたということも広報などで出ているが、全然関心を持っていないのか、見ていないのかわからないが、結局考えてみたら、子どもを持っている家族が少ない、現在学校に通っている子ども、小中と通っている子どもの家庭が少ないから、子どもがもう離れた家庭は、私は関係ないよと、うちは関係ないんだというようなことでこういう格好になったのかと思う。しかし、これでは、片一方ではそう言っていて、今、A 委員からも出たが、行政のやるまちづくり協議会とか人口が減るとこれとは合わないんじゃないかというようなこと。まったくそのとおりで、結局、それとは別の問題で、人口減をどうするかということと、統廃合をどうするかということとは、これは全く別の問題なので、そういうところがまだ市民の皆さんが理解していないのか、勉強していないのかは分からないが、ほんとうに無関心だなということがはっきりしたということで、ものすごく残念だったが、いずれにしても、これは実際として今進行していることなので、私はこのアンケートの結果を見て、おおむね 50% 以上、60% 台が出ているので、参加者は少なかったが、そういう気持ちがあるということで少し安心した訳だが、これは A 委員からも出たが、とにかく私もそういうことを耳にして、スポーツ、運動ということに関して、チームがつかれない、それから中には音楽、合唱なんかのことでもパートができないというようなことで、音楽の先生が困っている。特に、山武南中は吹奏楽部が評価されていることで、千葉県内でもかなりレベルが高く、合唱のほうなんかも、蓮沼のほうでは、中学校と小学校の子どもたちが一緒になって、合同で芝山の文化ホールで合唱をやったということで、私は両方の学校の校長先生にもお目にかかって話を聞いたら、とにかくみんなで一緒になんとかやろうということから起こったので、やはりそういうことも考えると、蓮沼の方たちは非常に悩んでいることがよくわかった。とにかく我々、学校のあり方検討委員会と教育委員会と教育委員の皆さんが、今やらなければいけないことは、意見を聴く会の中でも意見が出ているが、スピード感を持って早く結論を出さないと、皆さんに理解してもらえないということに、私は自分なりに、これはとにかく待たなすと、もう現在既に待たなして来ているのだから、とにかく平成 31 年ごろには、もうある程度きちんとした形で出して、はっきりした形を出したことを、さらにもう一回市民の皆さんに説明していくと、このアンケートの数字が相当また変わってくるのではないかとというように私自身は、今、自分なりに結論を出したところである。

委員長：その他にご意見があればいただきたい。それでは C 委員からご意見をいただきたいと思う。

C 委員：私は、今、蓮沼小学校で勤務させていただいているが、今の蓮沼の小中ということが出たので、この蓮沼地域の意見も読ませていただいたが、そうだろうなというように思った。ただ、この人口ピラミッドを見ると、これだけしかいないんだというのが改めてわかる。生まれた 0 歳児が 19 名。年齢階層の全体をみても他の地域と比べると、こんな人口なんだなというように改めて思ったのが感想である。小学校、地域の評価でもそうだが、小学校は地域の核であるので、やはり小学校はそのまま、中学校はやっぱ部活動だとかいろいろなことがあるので、子どもたちもそれぞれの道へ進んでいくので、中学校は具体的に話が行ってもいい

かなという思いはある。

委員長：そのほかにご意見等はあるか。それでは、全員の皆様からご意見をいただくのは、またその次として、(2)のほうに移りたいと思う。

(2)今後の進め方、考え方について

委員長：(2)については教育長からお話があるとのことなので、よろしく願います。

教育長：今後の進め方ということで、今、(1)のほうで意見を聴く会の状況等について説明をし、また、ご意見もいただいたところではあるが、今回それぞれの地域で行ったわけだが、非常に地域での意見の差が大きいということがあった。それから、時間の関係もあったので、用意した資料もカラー刷りのパンフレットを使って、それほど詳しい説明は当日行えていない。そんな関係で、私どもがあり方検討委員会、協議会を含めて、この2年間いろいろ議論してきたことを十分に伝えきれていないというところがある。そのようなことから、地域の方たちの中でいろいろ誤解が生まれている部分がある。そういった地域のほうからもいろいろご要望があって、もっと詳しくとか、回数を重ねてほしいというようなご意見もあった。我々としても、最初から丁寧な説明を地域にはしていくんだということで申し上げているし、今後さらに繰り返した進め方をしていかなければいけないというように思っている。

また、意見を聴く会で我々はいろいろな説明をしてきたが、市の財政とか計画とか、いろいろの方針がある中で、十分に情報提供ができていない部分がある。それは地域の方たちが求めている部分というのは、やはりいつごろやるんだ、どこに学校が移るんだという、ある程度具体的な情報を求めているし、そういうことがないと議論に入っていけない。でも、我々の今回の意見を聴く会では、組み合わせ程度のことしかお示しできなかったということで、先ほど言ったような十分に意見が伝わらないというようなことがあった。これについては、さらに市の計画や財政のほうとまた意見調整をしながら、詰めていかなければならないが、今まで議論してきたことについて、出せるところはやはり出しながら説明をしていかなければいけないのかなというように考えている。より多くの方の意見を出していただき、多くの方の理解を得て進めていきたいというように思っているの、どの程度の情報を出せるか等についてはまた検討しなければいけないが、今後の進め方としては、より小さな単位、例えば小学校区とか、PTAの方たちに対する説明とか、小さな単位で改めて説明をしていく。また、地域によっては、やってほしいという要望等もあるので、そういうところがあれば、そこにきちんとと向いて話し合いを続けていく必要があるだろうというように考えている。学校とかPTA関係の説明となると、今、新年度が始まった後、新たなPTA組織とかができるまで少し時間がかかると思うので、5月過ぎの総会が終わった後あたりから、そういったところに対しての説明はしていかなければいけないのかなというように考えているところである。こういったことについては、先日、教育委員会の第3回目の協議会を開き、やはり丁寧な説明をしていくということでは方針は一致しているので、今後の進め方としては、より小さなエリア、単位に絞って、もう少し具体的な情報を出しながら、繰り返し理解を得られるような説明を続けていくというような形で考えているところである。その辺のことについては、またこのあり方検討委員会の皆さんのご意見をいただければと思っているので、よろしく願います。

委員長：今回は市民説明会ではなく、意見を聴く会であったので、形とすれば、さまざまな意見をいただいた、それについて教育委員会の中で議論をして、素案というものについて、もう少し手直しができるのかどうか、そのところは動かないのかどうかというようなことも多分、

事務局の皆さんは、これから理解をしていただくための説明をしていくときに、どう素案とそれが変わったかというようなことについても、多分さまざまな関心があるだろうというように思う。いずれにしても、ただいま教育長のほうから、今後の予定について説明があった。このことについて、委員の皆様からご意見をいただきたいと思う。

D委員：委員長、よろしいか。

委員長：どうぞD委員。

D委員：今の教育長のお話は賛成である。この意見を聴く会で、蓮沼中学校区だけ全員が反対。意見を出した全員が反対、否定的な意見を出していた。その前の地域別協議会にしても、統廃合はおおむね全員が反対の意見であった。というのも、蓮沼に小学校がなくなると、蓮沼の活性化ができない。活性化ができなくなると、子育て、子どもたちが学校がないんだから、蓮沼地域には住めない、人口が減るといような考えを皆さん全員が危惧している。その辺を思っている。だから、仮に蓮沼地域に小学校ができるんだよと言った場合、大平小と蓮沼小が統廃合して、新たな小学校を蓮沼の地域にできるんだと言ったら、かなり意見が変わってくると思う。その辺をもう少し情報提供、もっと明らかにし出していただければ、この間の意見を聴く会にしても、もう少し違う意見が出たのではと私は思っている。ちょっと残念だったのかなとも思う。かなり言われて少し濁っていたので、だから、その辺がちょっと私は残念だったのかなというような感じを受けた。

B委員：委員長、よろしいか。

委員長：どうぞ、B委員。

B委員：只今のD委員の発言、そのとおりである。私は今、山武西小学校区でいろいろ活動していて、もう1つは、蓮沼地域に関してもかなりいろいろなことで、連携を持つことをやらせてもらっているものではっきりわかるのだが、山武地域と蓮沼地域というのは、とにかく温度差が違うので、かなり前の話だが、議会でも、ある蓮沼地域の議員から、蓮沼地域を離れ小島にしているのかという意見が、一般質問で出たようなことを記憶している。ほんとうにそのぐらいの温度差を持っているので、だから、特にこの学区制の問題については、私ははっきり言って、蓮沼地域をまず中心に、早く何とか方向性を蓮沼の地域の人たちに、意見なり、説明なりして、もっと密度を濃く、蓮沼地域を特別扱いということではないが、優先順位から言ったら、蓮沼地域をまず優先的に検討したほうがいいんじゃないかなと、個人的にはそういうふうに思っている。どちらかという、山武地域のほうは、もうみんな頭が決まっちゃっているように思う。だから、もともとはなかった学校を16年前に山武西小を、日向小が800何人になったから、校舎がないからというので山武西小をつくって、バツとやって、それと同時に中学校も必要だということで、山武南中ができたのもパッパとつくってやって、それをもとへ戻せばいいのではないかと。昔の2007年以前に戻せばいいじゃないかという意見がみんな頭の中にあるのだと思う。なので、そんなに大した問題ではないと、わりと簡単に考えている。山武地域でも問題があるとすれば、睦岡小と山武北小がちょっと、詳しくはわからないが、あそこは今、意見がちょっと違うところがある。山武西小学校区、日向小学校区のほうは、そんなに難しく考えていないと、私は思っている。ということで、何しろ蓮沼地域は何かしてこれをしないと、津波は来るし、生活はどうなるんだと、子どもたちを育てることができないじゃないかというようになると思う。30年以内にまた10メートルぐらいの津波が来るなんていう学者もいるので、そういうことを考えると、今いくら避難場所が3カ所、昔からあるが、そういうのがあっても、ちょっと市民、蓮沼地域の人たちは非常に心配だと思うので、私の意見としてそういうようお願いしたいと思う。

A教育委員：委員長、発言してもよろしいか。

委員長：どうぞ、A教育委員。

A教育委員：この前の意見を聴く会では全く発言できなかったが、現在の蓮沼小学校は、海岸から2キロというところにあり、午前8時から午後4時まで、子どもたちの安全を守るためには、東日本大震災で被災した大川小とか、そういうことを国民が見て体験しているので、なるべくだったら少しでも遠く、大平地区寄りにということを言いたかったが、なかなか反対派の意見が多くて言えなかった。ほんとうはそういうところが、やはり子どもたちの安全を守ることだと思う。数が少なくなっているが、蓮沼地域のコミュニティは、オライはすぬまとか、蓮沼スポーツプラザとか、そういうところが発展しているので、その辺でうまくやってもらって、子どもの安全というのをまず最初に言いたかったのだが、ちょっと言えなかった。その辺を強く押し出して行って、なるべく逃げるところは海より遠いほうが良いということを書いたかったので、今、一言言わせていただいた。

委員長：事務局へ質問する。これから細かく説明会を開くということだが計画は持っているのか。また、それは教育委員会の中で、具体的にはなっているのか。つまり、こういう考え方があると思う。理解をいただくために市民説明会をした。しかし、B委員からも出たように、これでは、市民に説明したという形、皆さんにお知らせしたという形には、なかなかならないだろう。もう少し細かく時期を見て行っていくというようなことについては、どのような考えを持っているのか。

事務局：先ほど、教育長のほうから話したように、事務局とすれば、前回、3月7日、8日、15日で行った意見を聴く会だけでは、こちらからの考え、今までに積み重ねてきた経緯については十分お伝えできている状況にはないというように考えているので、年度が変わって4月以降に、小さい単位でまずはPTAの役員さんとかからお話しするとか、ご要望にあわせてそういうところに伺って、説明する機会をまずは探して説明をしていく。また、それと併せ市長部局との調整が、まだ足りない部分が多いので、そこをまず詰めていく。内部的にはそこを詰めて、どこまでお話ししていいか。こちちの計画を詳細な計画にして、お伝えできるようなところはどこまでできるか、というところの話し合いをまず内部で詰めて、そこから、前回お話しさせていただいたことプラス、もやもやとしていた具体的ではない部分を、ある程度具体化したお話もしつつ説明会をして行って、その上でご意見をまた伺うというような機会をつくっていこうと思っている。ただ、まだ具体的なスケジュールが決まっていないが、そういう意向で今調整していこうと考えている。

委員長：およそいつごろから。

事務局：5月の連休明けぐらいから、そういう小さい単位での説明ができればというように考えている。

委員長：5月の連休明けになるということで、少し事務局のほうの考えもクリアになってきたようである。

B教育委員：委員長、よろしいか。

委員長：どうぞ、B教育委員。

B教育委員：この参加人数を見ると、先ほど、委員からもありましたが、非常に少ないわけである。これは推測だが、賛成ですと大きな声で発言しようとする人は、恐らくあそこには集まってこないだろうというのは予想した。非常に興味があって、冗談じゃないぞと、いわゆる地域コミュニティをなくすのかというような方が集まってくるのだろうと思っていたので、個人的には想定どおりであった。ですから、私は次の丁寧な、具体的にという話をしているので、そのところでは、いわゆる学校の保護者、PTAの多くの方々に出していただいて、もっとさまざまな意見が出るような展開というものを、やはり一定程度、こちらで作っていくという、

作っていくと言うと語弊があるが、そういう方々も参加していただけるような、そういう形をやっていくべきではないのかなと思っているし、この間の教育委員会協議会でもそんな話になったということを1つお伝えする。

委員長：特に小学校や中学校の統廃合というような問題について、例えば、行政だと告示板があって、パッと張っておけば、システム上はそれでもってやったということになる。例えば、蓮沼地域で道路を拡張する際に説明会を行ったが、大体10人か20人ぐらいいれば、それで済んだということになって、それで新しく物をつくってくれるわけで、反対する仕事ではなくて賛成してもらおう仕事なので、それはすんなり作業が進んでいった。今度の場合は、新しく学校をつくりますという話ではないので、その辺のところを皆さんから話を聞いて、さまざまなことについて、ある種の合意をいただくという作業は大変だけれども必要である、そう思っている。それでは、E委員から意見を伺う。

E委員：蓮沼地域の住民で反対している理由、そのあたりをお話しさせていただくが、蓮沼の特性として、千葉県ができて以来、蓮沼というのはずっと単独でやってきて、今、地域コミュニティが合併をしたときに施設がどんどんなくなっている。給食センターがなくなってしまった。幼稚園がなくなってしまった。そこに市に対して、合併に対して、我々住民はそれがよかったのかどうなのか、ということが非常に疑問に思っているところに、蓮沼の小中学校の統合。じゃあ、今度は小学校も中学校もなくなってしまうのかとなると、蓮沼の危機感というのは、ほかの地域ではわからないが、地域に住んでいると非常によく伝わってくる。先ほど、C委員から小学校と中学校が非常にうまくいっているとあったが、じゃあ、大きい中学校になれば、果たしていい教育ができるのか。東金中学校あるいはほかの中学校でもそうなのか。山武郡市のほかの中学校を比較して、蓮沼中は立派にやっているじゃないか、なぜ合併する必要があるのかという疑問があるというのは、これは事実である。私もこの委員会に入るまでは、実は小中一貫校の賛成派だった。ところが、これを引き受けるときに、住民は蓮沼だけを見ている。山武市民としての実感がまだないと言えればそれまでだが、ただ、同じ市内で、じゃあ、蓮沼だけを考えればいいのかということ、蓮沼だけ特別扱いしてしまっているのか、ほかの豊岡小もそういう状況になっている。そういったときに、小中一貫校が果たして正しいかどうかというのは、自分自身でも疑問に思っていた。なので、説明するときに、蓮沼はどうするのがいいのかということと同時に、今、山武地域がどういう状況に置かれているのかということも同時に説明して、同じような問題、10年後には各小学校が全部1クラスになってしまう、そういう驚愕な数字を見せられたときに、蓮沼だけ小中一貫校でいいのか、ほかの地域は、どうしても住んでいるところしか見ない傾向が高いので、そういったところを説明すると、ほかのところもこうだから蓮沼も考えなくてはいけないのかなという、蓮沼の人の心も動かせるのではないのかなというような感じがある。それと、B委員が言われたように、子どもたちがいない家庭というのは、やはり無関心なことがある。私も今ちょうど子どもが中学校を卒業したが、卒業しても今度は自分の孫、我々の子どもの子どもが、蓮沼小に行ったときに、孫の世代を迎えに行ったりするのは我々の世代なので、よくそれは考えたほうがいいのかというように言っている。ですから、皆さんはこういう意見で、各地域に住んでいる、いろいろな地域審議委員会、あるいは何か委員会が多分あると思うので、そういったところでも、我々もひとつ啓発に1枚かんで、地域により細かく説明すべきであり、地域の人に聞いてもらったほうがいいのかというように思う。

委員長：F委員、ご意見をいただけたらお願いしたい。

F委員：今いろいろお話を聞かせていただいたが、結局、サンプルが不足しているようにも感じる。これは皆さんも同じだと思うが、これで事務局としてもよしとすることはないんだと思うが、

この判断をどう捉えて、このサンプルの数値でよいというように考えているのか。それが1つ。それから、統廃合するというのはおおむねよさそうな感じを受ける。しかし、統廃合するには、山武市の中を全て1回で、同時に行うことはまず不可能だと思う。これは1つ1つ選んでやるとなると、その選び方によっても問題が生じると思うが、一番最初に各学校の耐用年数、危険度を示されたのを記憶しているが、校舎ができる間までというのは、今から考えても、先ほどおっしゃったように、スピード感を持ってやったにしても、5年ぐらいはかかるのかどうかかわからないが、もしそのくらいかかったとすると、既に危険校舎であるのが成東中学校ではないのかと、ちょっとそんなように思った。その場合、成東中ができないで、よそのほうへまず第一番目に行った場合に、成東中の校舎は手つかずのままおくことができない。それで、この間、保護者の方もちょっと言われていたし、このアンケートにもあったんが、成東中はトイレもなくて、ひびが入っていて、こういう校舎で成東中と比べて生徒さんは一生懸命やっているんですよという話も聞かせていただいた。そういうときに、先ほど教育長がおっしゃったが、具体的な時期を決めてお話を進めていくというときに、そういう場合も校舎を建てるまでの間の改善策として、具体的な事案というのがそういうのに入るのかということをお伺いしたい。

委員長：F委員から今ご質問があった。要するに、優先順位、どのような優先順位でいくかというようなことについても、多分それぞれのところがいつごろになるのかなという、とりあえずどういう形で説明をしていくにしても、そこら辺のところはきっと必要なことであるので、今どんな考え方でそれを進めていくかということの順番というのは、まだ今はとてもつけられるわけではないので、その辺は教育委員会で考えていただきたい。先ほど、教育長は、具体的な事案を持って決めて説明に行きますということで、具体的な事案というのはどのような考えで伝えていくのか伺う。

教育長：それは、今回皆さんにお示しするに当たって、最初、あり方委員会の皆さんにお示した統廃合するにはこっちの学校がまだ新しいし、規模も大きいし、使えるよとか、場所はどっちを考えていますという、そういったところまでは出ししていかないと、この議論が進められないだろうというように思っている。成東中の問題にしても、建て替えを早急にしなければいけないということにはなっているんで、そういったことも踏まえて話を進めたい。というのは、今、市の財政問題とか、新市の計画を待ってという話をしているが、その計画の中に我々がこれから先の学校のあり方をどうするかというのを、やはり反映してもらわないとできないわけである。そのためにはやっぱり地域の皆さんとの話の中で、先ほど、蓮沼地域の話にもあったが、蓮沼エリアに小学校がもし残るのであれば、理解が得られるという話し合いがまとまれば、そのことを今度は我々が市に対して、この学校規模を維持するには、蓮沼エリアには新しい学校を新設することでないと地域の理解を得られない。なので、こういう計画を反映させてほしいということは、言っていかなければいけないというように考えているので、そのためにはやっぱり早い時期で、やるということは言えないが、こういう考え方はどうだろうかという議論に進めたいとは思っている。

委員長：多分さまざまな問題が合わさってしまっているんで、5月から細かい説明会を開いていくということだが、そうすると、多分それぞれのところでそれぞれの皆さんが、じゃあ、一体私たちのほうはどうなのか。先ほどF委員のほうから話のあった、成東地域の中学校を1つにすると言って、もう耐用年数が来ているのだし、それはいつになるのというようなことを聞かれたときに、それはまだ計画の段階ですと言うと、それはなかなか難しい問題である。だから、その辺のところを、この5月から市民に説明するときに、今までと同じではなく、今までよりももう少し地域に根差した、それぞれのところのことの、ある種のぼやっとしたで

もいいので、そのことについて教育委員会の中で協議をするというのはいかがか。

教育長：それはもちろんしていかなければいけないことだと思う。

委員長：そこら辺のところは、このあり方検討委員会としては、そういうような形はとってくださいというお願いをするということはしておかなければと思う。

教育長：ある程度の形というのは、もうこの場では議論していただいて、もう少し先のところではできているので、そういう考えがあるということで進められればなというようには思っている。

委員長：そうすると、それは、そういう具体的なものがあつたときには、あり方検討委員会のほうにご提起いただけるのか。

教育長：具体的な、地域との話をした中でということか。

委員長：例えば、成東をいつごろするとか何とかという、そういうことが決まったことについては、私どものほうにお話をいただけるのか。

教育長：それはもちろんする予定である。

委員長：そうすると、5月に説明するときに、どんな説明をするかという説明は、あり方検討委員会にしてもらえるとということなのか。

教育長：どこまでを出せるかというのは、まだはっきりしていない部分があるので、あり方検討委員会への説明までは考えていない。

委員長：それでは、今、その話が出たので、皆さんの中で、こんなことだけは、この次の説明会の中で市民に説明したほうが良いというような案について、ご意見があればいただきたいと思う。

G委員：全ての会に出席させていただいて、いろいろな意見を聞いてきたが、意見の中で今まで6,000人いた子どもが3,000人になってしまった。それから急いでその穴を埋めようというのに非常に無理があつたと。例えば、1,000人が減った、2,000人減ってきたときに、段階的にいろいろな処置を講じてこなかったのは、やはり行政、教育委員会の怠慢だつたのではないかなど、はっきり言わせていただくと、そういうような捉え方を市民はしているわけである。具体的な話を進めていく上で、ある程度まで内容を開示していかないと話が煮詰まってこないと思う。教育長もわかっていると思うが、なかなか行政との兼ね合いがあつて、公表できないというのもわからないわけではないが、ある程度、こことここはなくなるとか、廃校になるとかということまで突っ込まなくても、こことここは合併させてもらう、そういうところまでは出してもらって、その上で議論をしていくというような形にしないと、なかなか話が前に進んでいかない。小さな会合を何回やっても同じことの結果になってしまうというような気がする。ある程度、合併の枠組みだけでも開示してもらわないと話をもっと前へ進んでいかないのではないのかなというのが、私の個人の印象である。

A委員：先ほどもあつたが、地域の温度差がとても大きいので、蓮沼小とか豊岡小とか、すぐどうこうにはならないと思う。もうちょっと話を詰めないといけない。ところが、先ほどもB委員からあつたが、山武地域は私が聞いた範囲では、ほとんどもう合併は仕方ないだろうという雰囲気になっている。むしろ早く合併してくれないかという声があちこちから上がっている。となると、当然、1回ここで住民説明会もしているのだから、次はその状況に合った形でどんどん地域別に、一律ではなく進めていかなければいけないだろうと思う。その辺をちょっと、しっかり進められるところはどんどん進めていくという、段階を変えていただきたいと思う。

委員長：貴重なご意見であると思う。次に、H委員からご意見をいただく。

H委員：私は、統廃合を具体的にこうしたほうが良いとかという案、考えとかは、具体的に今は述べられないが、1つ考えてきたことがある。教育委員会の皆さんには、ほんとうに子どもたちが立派に成長するように、日々、教育向上のために取り組んでくださっていることをほんとうに感謝申し上げる。保護者を代表して言わせていただく。それで、1つ、私の息子が去年

の9月から不登校になり、それで校長先生とか先生方にはほんとうにお世話になって、息子のことをほんとうに温かく見守ってくださって、ほんとうに感謝している。その不登校がきっかけで、ある小学校の先生とご縁をいただき、その小学校の先生というのが、不登校の問題に取り組んでいる先生なのだが、その先生にいろいろと私も相談させていただいたが、解消率が100%だそうである。私もその先生にいろいろと相談して、不登校の原因が何だったのかというのが明確にわかって、3月いっぱいまで息子は学校に行けなかったが、この4月から行けるだろうと私は思っている。それで、不登校の子どもとか、いじめの問題とか、今、全国にたくさんあるが、その先生の解消率が100%だというのがびっくりして、なんでそういうことができたのかというのを伺った。そうすると、ある研修がきっかけで知り合ったのだが、学校でクラスを担任で受け持たれていて、何をしたのかというのを聞いた。それをちょっと今日まとめてきた。不登校だった子どもが毎日学校に来るようになって、子どもたちの成績が劇的に上がって、ある研修がきっかけだそうだが、モンスターペアレンツもいなくなって、いじめがなくなって、成績が劇的に上がったことで、教育委員会の人たちが何をしたんだというようにびっくりして、何をしたんだとその先生にいろいろ聞くぐらい、受け持っていた子どもたちがすごく元気に、はきはきと明るく、目をキラキラさせて毎日学校に来るようになったと言っていた。具体的に何をされたのか聞いたところ、朝の健康観察のときに、一人一人名前を呼びながら、誰々ちゃんと呼んだら、「大好きだよ」と一人一人子どもたちに言うようになって。そうすると、低学年の子どもなんかは、ほんとうにもうその一言で目がハートマークになるくらい喜んで、クラス中がほんとうに調和した空気に包まれるそうである。それをやっていったら、不登校だった子が毎日学校に来るようになって、それが1週間で不登校は解決してしまったとのことだった。あとは、帰りの会で、クラスの友達のいいところ、美点発見といていたが、自分が素直に感じた友達のいいところを、感じたままに言うというのを帰りの会で、毎日発表し合っていたそうである。そうしたら、子どもたちが言いたくて、友達の美点発見をしたくて、それを発表したくて、美点発見がとまらないぐらい、子どもたちがすごく積極的に何かしたという話があり、いじめられていた子とか、いじめていた子どもたちの美点発見をしているうちに、いじめとかも解決してしまったそうである。ほんとうにその先生、子どもたち、みんな山武市の先生方もほんとうに愛情を持って、子どもたちが立派に成長できるように日々見守ってくださって、教育にかかわってくださっておられるが、それがもしこの学校の中とか、あとは家庭の中でそれができたら、すごく子どもたちが生き生きしてくるのではないのかなと感じたので、それで私も実際に自分の子どもに美点発見とかいろいろやってみた。不登校だった息子は、どうなったかというところ、不登校とは思えないくらいどんどん目がキラキラして、ほんとうに目がハートになって、言っているほうもこんなに変わるんだというぐらい、私も言うのが楽しくなって、保育園の息子もいるが、朝、別れ際とかに、「大好きだよ」と言ってこうやってぎゅっとしてハグするのだが、そうすると、「ちょっと昨日お昼寝できなかったんだ、すごく不安だったんだ」と言っていたのが、それをすると、「今日は全然大丈夫だったんだよ」とかと言ってくれたりとか、子どもがそれを言うだけでほんとうに変わる訳で、これを私たち親も子どもに対する愛情のあらわし方というのが何となくわかっていないような、かわいいんだけど、具体的に急所の部分がどうやっていったらいいのかというのを、不登校の息子に勉強させてもらったかなと思っている。

これを統廃合のことと同時進行で、この先生がやっていたようなことをちょっとでも、例えば、参観日の懇談会の後とかにやることができれば、すごく子どもたちがキラキラとするんじゃないかと。実際に不登校とかいじめの問題とかが解決したように、私はほんとうにこ

の先生がやっていたことを、山武市の学校でもできると思っている

委員長：多分、視点は統廃合や全てのことも、子どもが幸せかどうかという1点にかかっている、そう思っている。

H委員：そういうことを同時にやっていただければと思う。

委員長：それはとても大切な視点だと思う。貴重なお話がいただけたと思う。それでは、I委員から意見をいただきたいと思う。

I委員：皆さんと考えが大体一緒ではあるが、山武地域は、ほんとうに私も聞く限りでは、あんまり反対している人がいなくて、逆に、ここに来ている人は、やはり反対している人で、山武北小の方とか、それこそ源地区の方なのかなと思っているのだが、結局、事務局としては、話がとんとん拍子に進めればいいのかもしいかなが、もし蓮沼みたいな地域で今後ずっと反対の意見があって、何とか説得してもどうしてもだめだとなったら、やはりこの素案は変更するものなのか伺いたい。

事務局：最終的には、教育委員会で話し合いをして、方向性を決めていくという形になるかと思うが、素案のままずっと引きずるというわけにもいかないの、ある程度の段階までの、説明は丁寧にさせていただき、それでもなかなかご理解いただけないときには、変更ということも選択肢の1つとして考えなければいけないのかなと考えている。

I委員：それともう1つ情報として知りたいのは、多分統合したときに、例えば、成東東中と成東中が合併した場合は、どこに学校を建てるのか、それともどっちかの学校を使うのかというのは、もう素案としてある程度決まっているのか。

事務局：考え方とすれば、今回お示した案の一步手前に戻ると、どちらを使ってという大体の案は決めてあったが訳だが、ただ、それを全部やると、財政的な裏づけもすぐにはできない。あとは、時期、どうずらしていくかというところの話もあったので、それを財政部局と調整して行って、どちらの学校を使ってという具体的な案と予算を、うまくマッチングさせてお示しできるように、今、調整をしているという段階である。

I委員：一般の人は、多分その辺が一番知りたがっているし、それがないと議論ができない。

委員長：私もできないと思う。どうなるのという、その辺のところも含んで教育委員会の中で協議をしていただきたい。それでは、J委員から意見をいただく。

J委員：皆さんのお話を聞くと、ちょっと重なる部分があるかと思うが発言させていただく。今やっぱり市民の理解を得る部分で、統合ということがすごく先走ってしまっている部分が多いのではないかなと思った。理解を得ていくには、慎重に丁寧な説明がとても大切だと思うのだが、今回はこういったことを話しますよという、そういう具体的な内容を紙面で示していくことも1つではないかなと思った。それと、この市民から意見を聴いたその報告ということは、市民の方々にどのように伝えていくのか伺いたい。

委員長：とても大切な意見だと思う。今の進行状況について、教育委員会として市民に開示していくというようなことについては、どんなような形で行うのか。

事務局：前回行いました意見を聴く会のご意見の受け答え等については、市の広報紙や教育委員会広報紙「懸け橋」。それからあと、ホームページ等を予定している。

委員長：K委員、意見等があればお願いします。

K委員：意見を聴く会の参加人数が少ないというご意見の中の意見の1つとして、集まっていただく方法として、1つとしては、学校単位の何か総会とかPTAの集まりの場に、教育委員会の方が出向いて時間をいただくというのも1つの方法ではないかと思う。あるいは、区長さんたちを集めるというところでは、ほかのいろいろな会議等で区長さんに集まってお話いただき、地域の代表として、まず区長さんたちに説明をする場というのも利用できるのではないかな

と思った。

委員長：それでは教育委員長から、これからの教育委員会の進め方等について、お話しいただければと思う。

教育委員長：私は、計画の優先順位、それと、合意を得るといのは、つまり、地域住民の合意を得るといのは何をもってするのか。それから、丁寧な説明と言っているが、丁寧な説明、情意的な言葉といのは人によって理解がいろいろであるので、そこら辺をどう進捗させていくか、こんなことの3つを考えている。また、皆さんのご意見も聞きたいなと思っている。

A教育委員：委員長、よろしいか。

委員長：どうぞ。

A教育委員：平成24年度のときに、豊岡小で5人の児童が入学して、そのときに女の子が1人で、男の子が4人だった。今現在、その子たちは小学3年生で、今度、4年生になるところで、低学年のときは大丈夫かなと思っていて、高学年になると、それぞれ男女の体のことがあったりとかして、すごく心配をしていたら、もう4年たってしまった。やはり数だけではなくて、男女比というのもとっても大事で、その子たちが今度4年生になったときに、複式学級で、なんとか5年生と一緒にしてくれたので、同じ学級で勉強する女の子に、いろいろな体の変化を相談することができるとは思うが、もう4年もたってしまった。だから、やっぱりそういう点では、スピード、まずどこが一番最初かといのはとても大事なことでないかといつも思っていた。

C教育委員：蓮沼地域の話し合いを考えると、合併のメリットをどのように伝えるかが問題だと思う。あのとき、「今、学校は何か困っているのか」、「今、人数の中で、小も中も一生懸命工夫をしてやってくれているから困っていることはない」、「困っていないのなら、統合する必要はないんじゃないか」という問答があった。子どもの成長段階において、より多くの人にもまれていったときに、生きる力がついていくのではないかと思っている。

委員長：次にL委員からご意見をいただく。

L委員：私は、松尾地域での意見を聴く会の開催前に、豊岡地区の方が主催の豊岡小学校区の会合に出席し、そこで豊岡地区の皆さんの意見を聞いていた。その後、松尾地域での意見を聴く会に出席したが、豊岡地区の皆さんは、豊岡地区の会合で話し合った意見や要望を一生懸命出していた。その中では、今まで豊岡小学校を大事にということで、学校行事等に協力してきた方々が、とにかく今一番心配をしている。そういう中で、これはすぐに統合だとか、そういうことではなく、先ほど委員長が疑問を投げかけてくれたが、丁寧で親切な話し合い、これがまず大切であるという思いで、意見を聴く会から帰ってきたわけである。これからは、やはり保護者、地域の方々からご理解をいただくには、説明がまず大事。次に、保護者の方々での話し合い。これを要望したいと思う。

委員長：教育委員長、教育長のほうからあった、合意を得るといのは一体どういうことだといことについて、ちょっと議論してみないといけないかなというように思った。多分これからの市民説明会は、今回の方法では不十分だといようなご意見があったように記憶している。小学校別に今度実行して行って、みんな来てくれればいいが。

B委員：それから、ある程度の具体的なものが出れば、見えるものが違ってくると思う。

委員長：私もそう思っている。

委員長：とりあえずもう一度やっていただいて、その結果によって、また議論をするということで。最後に副委員長からご意見をいただく。

副委員長：いろいろとお話を伺っていて、1つ共通であるのは、住民への説明をもう一度したほうがいいというのが、出てきた委員会としての方向性だと思う。それから、市の側でどの程度情報

開示ができるかというのも、それに向けて整理していただくというのが、この今日の委員会で出てきたもう1つのテーマだというように思った。あとは、やはり今日出てきたところでも1つ個人的に思うことは、学校の統廃合とか、あり方を検討するときに必ず出てくるのが、人口の減少とか市全体の問題とかということが、蓮沼地域のところでも一番中心的なまちの活性化とか、そこに住み続ける人たちの気持ちとかという部分があるので、そこに向けた新しい施策なり何なりというのを、行政はやはりセットで考えない限り、お話を聞いている限りにおいては、これは各地域の利益というか、気持ちの強い者と、いくらそこで意見を戦わせても、その地元の人たちが思っているコミュニティを大切に思う気持ちを、尊重しないわけにはいかないと思うわけである。共通していることは、恐らく地域を活性化させたい、子どもたちがほんとうに喜んで通える学校にしたい、安全でということ、みんなが実は共通で思っていることだが、この人口減少について施策がないという限りにおいては、そこをやはりセットで考えることも、少し大変難しいとは思いますが、学校のあり方としても要望をしていくということをしなない限りは、住民の人と話をしていく接点がなかなか見出せないのではないかとこの気持ちがある。例えば、蓮沼地域の問題は、小学校が2キロしか海岸から離れていないということであれば、それはその学校が蓮沼地域からなくなることは困るけれども、ここは何か手を打たなければならぬ問題であるならば、これは学校のあり方とは別次元にしてでも早急に行わなければ待たない状態の問題になるかもしれない。ですから、そこら辺がやはり委員長が言われたとおり、さまざまな問題が人口減少でたくさん合わさってくるがために整理ができなくて、この学校の問題だけを見ようとすると、ほかの問題が理由になってここが進まなくなるという非常に停滞したところになると思うわけである。ですから、1つは住民の方にお話をしながら意見を聞いて、その意見を尊重しながら、もう一度これでよかったかどうかを考えつつ、それから、行政で打ち出せるものを打ち出して考えとして提示する。それからもう1つは、各地域の人たちがこの地区を活性化するために、こういう小学校とか中学校のあり方だけでも、それは自分たちだったら、ほかの対案としてこういうことができるのではないかと、ということ地元の方たちにも考えてもらうというようなことをしていかないと、やはり皆さんのお気持ちが1つの方向にまとまりにくいのかなという印象を得た次第である。そういう点で、また機会があれば私も地区の説明会に行ってお話を伺いたいと思っている。

委員長：その他、特に発言をしておきたいことはあるか。事務局、何かあるか。

事務局：先ほど、F委員のほうからお話があった、成東中学校の建物、危険建物は成東中学校ぐらいかなという件について、成東中は古いけれども危険建物ではない。あれは危険だよと思ってみんな話した、範疇なので、耐震の改修はしてあるし、強度的には何ら問題はない。ただ、古いのは確かに古いという、設備的に古いとか、いろいろ問題は抱えているが、危険かどうかという範囲で考えると、危険というふうには言えないというところでご理解いただきたい。

F委員：今、話して、私もちょっと疑問に思ったが、統合するというと、皆さん、学校がなくなってしまう、学校がなくなってしまう、確かになくなってしまうと思うんだけど、施設はどうなるのか。考えているのは、コミュニティ施設として残すのか、取り壊すのかというのは、これはどうなのか。そこら辺の考えというのは、まだ考えられないのか。地域の人たちは、コミュニティセンターとかがなくなってしまうと思っているんじゃないかなと。

委員長：説明するときには、その辺のところもきっちり説明したい。

F委員：場として残る、活用してもらいますよとなると、これは維持費がかかるだろうけれども、でも、地域としては、施設が必要だということと、学校がなくなるとするのは、ちょっとまた別のような感じだと思う。

G委員：ちょっとよろしいか。

委員長：どうぞ、G委員。

G委員：再三そのことで私は教育委員会のほうで会議でも言っていたのだが、コミュニティというよりも、昨年なんかはいろいろところで自然災害が多発して、明日あるか、明後日あるか災害はいつくるかわからない。だけど、成東の区長会の支部で、今、成東地区にある学校で避難場所として人口から割り出したが、それでも足りないぐらいである。それが半分になってしまったときに、避難場所がなくなるという大前提がある。それをどうするのかということ、これを教育委員会のほうからは、防災担当のほうと打ち合わせをして、これから考えていくというような返事をいただいているが、避難場所がなくなるということは既成の事実である。その辺をどうするのかということも、学校を減らすのは簡単かもしれないが、もっと難しい問題にぶつかるのではないかという印象を持っている。

委員長：さまざまなお意見をいただき感謝申し上げます。

4 その他

委員長：それでは、その他に移りたいと思う。私のほうから、委員の任期について、皆様には継続のお願いをいたしたいと思っているが、変更に伴う報告や引き継ぎ事項について、事務局から説明をお願いする。

事務局：それでは、ただいま委員長からありました委員の任期の件について、ご説明させていただく。委員の任期については2年となっている。当初委嘱させていただいた期間は、平成26年11月13日から平成28年3月31日となっている。ただし、団体によっては役員の変更等あるかと思う。そこで、委員の変更があった際には、その時点で事務局のほうにご連絡をお願いする。また、今までの会議資料については、新しい役員の方に引き継ぎお渡し願いたい。なお、次回の会議の開催ということで、基本的には変更された方に委嘱状をお渡しするような対応をとるが、会議の開催については、今までお話ししてきたように、5月以降、小学校単位で説明会を行う予定で、市長部局との調整も行う。そういった関係もあり、はっきりとした時期は申し上げられないが、大体7月ぐらいになるものと考えている。開催通知については、その際に改めて送付させていただくのでよろしく願いたい。

委員長：何かご質問、ご意見があるか。なければ、以上で会議を終了したいと思う。

5 閉会 午後3時30分